

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2023年4月12日

事業ID: 2022010104

事業名: 栃木県市貝町における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営と車両整備

団体名: 特定非営利活動法人 いちかい子育てネット羽ばたき

代表者名: 永島 朋子 印

TEL: 090-3533-6521

事業完了日: 2023年3月31日

■契約時

事業費総額	:	42,530,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	42,530,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	41,743,789 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	789 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	41,743,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	787,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.「子ども第三の居場所」の開設
物件現況: 旧小貝中央小学校 町所有施設廃校(築43年)
取得形態: 行政財産使用許可(使用料免除、光熱水費のみ実費徴収予定)
内容: 木工事、電気工事、空調設備工事、設備配管工事、弱電工事、サッシ入れ替え工事、サイン工事、車両整備など
施設名称: 旧小貝中央小
面積: 総面積約514㎡
構造: 鉄筋コンクリート造
施設概要: 食事スペース、キッチン、相談室など
定員: 子ども20名



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.「子ども第三の居場所」の開設
物件現況: 旧小貝中央小学校 町所有施設廃校(築43年)
取得形態: 行政財産使用許可(使用料免除、光熱水費のみ実費徴収予定)
内容: 木工事、電気工事、空調設備工事、設備配管工事、弱電工事、サッシ入れ替え工事、サイン工事、車両整備など
施設名称: 旧小貝中央小
面積: 総面積約514㎡
構造: 鉄筋コンクリート造
施設概要: 食事スペース、キッチン、相談室など
定員: 子ども20名

(3)成功したこととその要因

関係各所との連携により事業を推進することができた。

(4)失敗したこととその要因

失敗とまでは言い難いが、契約時の予定よりも完成が1カ月半後ろ倒しになった。主な原因は、入札に時間を要したこと、コロナ禍において資材調達遅延による工期の延長によるもの。

(5)事業内容詳細

別紙写真参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 栃木県市貝町における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
 (1)期間:2022年9月1日～2023年3月31日(週3日、14時から20時まで開所)
 (2)場所:栃木県市貝町
 (3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学生を中心に20名とその保護者
 (4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。



(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 栃木県市貝町における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
 (1)期間:2022年10月1日～2023年3月31日(週3日、14時から20時まで開所)
 (2)場所:栃木県市貝町
 (3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学生を中心に20名とその保護者
 (4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

(3)成功したこととその要因

行政、学校、地域との連携を図り、市貝町における子ども第三の居場所の周知に務めた。そのことにより、困難度の高い児童は常時利用につなげることができた。

(4)失敗したこととその要因

失敗とまでは言い難いが、対象児童及び保護者に対する直接的な周知が不足し、目標の平均利用者数は未達となった。

(5)事業内容詳細

スタッフは背景に困難を抱える児童について、1対1の関係づくりを丁寧に行い、生活習慣の形成や食事の提供によって社会的相続を補完する。学習においても、状況に応じて、理解を深められと共に、学習習慣の定着を基本として宿題と一緒に取り組む。その他、子ども同士の関係構築を見守りながら、時にはコミュニケーションをサポートし様々な人との関わりを学ぶ。例)水曜日:A小学校下校14:45、居場所着15:00、おやつ・宿題・自由遊び・夕食準備(ご飯はスタッフやボランティアが作る、子どもも配膳や椅子の準備を行う。)・夕食(みんなで同じ食卓を囲む)・歯磨き・帰宅準備。土曜日:開所9時、一部児童自宅に送迎9時～9時30分、居場所着後10時まで学習の時間(宿題や簡単な計算、100ます計算のプリント)、主活動10時～・昼食(スタッフやボランティアによる手作り)12時、自由遊び13時～、閉所15時、必要に応じて自宅に送迎。その他、保護者の送迎時間については、柔軟に対応している。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

1.2023年3月31日までに1日平均利用児童数を15名にする。
 2.ボランティア等地域住民や行政、学校との関係を構築し、強化する。町内3小学校や町教育委員会関係課等とは、定期的に情報共有を行う場を設ける。加えて、活動の様子をニュースレターにまとめ、毎月町内小学校教員に配布する。
 3.事業をとおして、多世代が交流できる機会を創出する。具体的には、当法人がこれまで行ってきた体験活動を拡充し、伝承行事や稲作体験を子どもや保護者に対して提供する。
 4.子どもや保護者の「経験の不足」を解消するようなイベントを事業期間内に7回実施する。具体的には、前述に加え、1)高度DX化したSociety5.0時代を生きる子どもに対して、デジタルリテラシーを高めるための学習プログラムを提供する。2)探求型フィールドワークとして、遠足を実施し、自地域に対する愛着をより高めることを目指す。3)子育てで孤立しがちな保護者に対して、月1回の面談(個別又はグループ)を行う。ワークショップやグループトーク、カウンセリングをとおして、保護者支援の充実を図る。
 5.居場所を利用する子どもの個別カルテを作成し、変化するなか成長を可視化して記録する。カルテでは各種プログラムのへの参加状況や日常の振り返りシート(日記)などをまとめる。それらの情報を分析し、利用する子どもの変化を可視化することによってより、このプログラムの妥当性を明らかにする。子どもや保護者にとっては変化(成長)がわかることで自身の自己肯定感につながる効果もあると考えている。

入力文字数	643	文字数チェック	OK
1.について、達成状況は一日平均利用人数は3名と目標の達成状況20%に留まっているものの、登録者数は16人となり少しずつつではあるが児童と保護者への周知が進んできている。見学者は月平均3組で、自治体の人口規模からすれば町民・保護者とも関心が高まっているといえる。2023年3月31日までに1日平均利用児童数を15名にする目標を踏まえ、次年度は、年度末の利用者数を確保できるよう、町内外に向けてイベントを年2回程度開催する。2.について、ボランティアや食料・物資の受入等、地域における関心の高まりを感じている町内3つの小学校や町教育関係課等とは定期的に情報提供共有を行う場を設けることができた。加えて、毎月活動の様子をニュースレターとして5回発行し、担当課、スクールソーシャルワーカー、町内小学校全教員に配布している。3.について、当法人がこれまで行ってきた体験活動を拡充し、子どもや保護者に対して、多世代交流を図るイベントを事業期間内に7回実施するとしていたが、13回の実施ができた。4.について、今年度の保護者支援は、保護者の要望に答えることの支援にとどまったが、次年度は保護者支援を重点的に行っていく。5.について、居場所を利用する子どもの個別カルテ作成し、日々の日報の積み上げとスタッフ間の情報の共有内容、プログラム参加実績とその振り返り等で構成し、スタッフ間で情報共有を図っている。必要に応じて児童や保護者に開示することで、変化(成長)を可視化し、自身の自己肯定感につなげている。			

3.事業実施によって得られた成果

1.について、利用者の確保ができた。2.について、地域住民のボランティアによる継続支援の受入、行政や学校との連携、他団体との協働が進んだ。3.について、異年齢や多世代での活動が展開され、体験活動が予定回数を上回って企画できた。4.について、保護者との信頼関係を構築し、誰もが安心して過ごせる関わり居場所づくりができつつある。5.紙ベースの日報のデジタル化を進め、日々の記録及びデータ管理が進みつつある。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

保護者の参加を得ながら、居場所の活動を展開することが難しいと感じている。保護者の相談にその都度、現場担当者が対応しているが、個別に時間を取ることは人員配置が難しく、次年度からは法人内で人員体制を整理・強化して対応する。また、町の臨床心理士に定期訪問を依頼し、その支援を得ながら3か月に1度程度、児童の個別支援プログラムを作成する。保護者が気軽に相談しやすい関係性を作っていく。ボランティアの参加やスタッフの確保を進め、保護者の相談によりきめ細かい対応を行う。SNS等を活用し、保護者とのコミュニケーションをスムーズに進める。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

・完了報告書
・建築物(写真等)
・車両(写真等)



(2)事業完了時の成果物名称

・完了報告書
・建築物(写真等)
・車両(写真等)
その他チラシ

(3)未作成となった要因

なし

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fields.canpan.info/report/detail/28397>